

2022年度 町田市グループホーム連絡会活動報告書

1. 2022年度活動方針

1. 町田市グループホーム各事業所の質の向上
2. グループホームのサービス・活動内容の啓蒙活動
3. 認知症専門サービスとしての地域への還元
4. 他職種との連携強化（地域包括ケアシステムの推進）
5. 圏域毎のブロック化による、地域に密着したブロック単位の情報共有・活動の活性化
6. 町田市介護サービスネットワークへの事務局の委託による運営負担の軽減

2. 総括

(1) 全体として

町田市グループホーム連絡会としての活動は新型コロナウイルス感染症の流行が続き、計画したものの活動自粛または中止するかたちとなった。連絡会加入率は新規事業所も加わり、市内の認知症対応型共同生活介護26事業所、加入率100%となる。主な活動としては、オンラインによる総会、1回の定例役員会、1回の全体定例会のなかで意見交換会を行う。また、町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会へ参加。定例会のなかで感染対策やワクチン接種、BCP等についての意見交換や情報共有を行った。

3. 活動報告

(1) 町田市グループホーム各事業所の質の向上

- ①研修会の実施（各圏域毎に必要な応じて企画・開催）は新型コロナウイルス感染防止の観点から自粛。
- ②情報交換（各圏域ブロック・施設の取組、等）は新型コロナウイルス感染症流行に伴い、開催が難しく、各施設ごとで情報交流を行った。
- ③連絡会主催の「職員交流会」は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止した。

(2) グループホームのサービス・活動内容の啓蒙活動

①活動報告会

役員会

総会 8月26日（木）15：00～ オンライン

オンライン意見交換会 12月20日 15：00～ オンライン

各圏域で実施

堺・忠生地区：未開催。

鶴川地区：不定期も交流の機会あり。

町田地区：未開催。

南地区：未開催。

②作品展示会 新型コロナ感染防止の観点から中止した。

③地域行事参加

各地域・自治体のお祭り参加自粛止。

新型コロナのため地域行事の開催も減り、また参加も自粛。

(3) 認知症専門サービスとしての地域への還元

①施設の開放

個別相談会、認知症カフェ等の企画・呼びかけ。

新型コロナのため催し物は行わず、問合せ等による個別の相談に対応。

②災害時の被災者受け入れ

行き場のない独居高齢者などの一時的な受け入れ。

特に大きな災害もなく、またコロナのため一時受け入れは行わず。

③認知症セミナーの開催

高齢者支援センター等と連携し、各地区で認知症セミナーを開催。

新型コロナのためセミナー開催を自粛。

(4) 他職種との連携強化（地域包括ケアシステムの推進）

①行政、各連絡部会への参加、グループホーム連絡会内の情報共有

（町田市、まちプロ、医師会、介護サービスネットワーク、認知症施策推進協議会）

RUN伴などにも積極的に参加。

②各圏域での地域ケア会議への参加等

(5) 圏域毎のブロック化による、地域に密着したブロック単位の情報共有・活動の活性化

ブロック毎の地域性を考慮したイベントは新型コロナのため自粛。施設間の情報共有は各所で行った。

(6) 町田市介護サービスネットワークへの事務局の委託による運営負担の軽減

①運営にかかる役員の運営負担の軽減

(7) 合同運営推進会議

新型コロナのため合同の運営推進会議は開催出来ませんでした。

(8) 事業所空き情報

会員事業所に対して「町田市介護人材開発センター」のホームページに「グループホームの空き情報」を毎月更新・掲載、関係機関へメールでの周知を行った。

(9) 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会

この協議会は、町田市の在宅医療の普及、医療と介護を始めとした多職種連携の促進等を図り、地域包括ケアシステムの構築を目的としている。

2022年度委員 いこいの郷花梨・南大谷 常盤 弘幸

① 委員として連絡会より選出。1名が代表、3回/年の協議会に参加している。

(10) 認知症施策推進協議会

委員 グループホーム秋田高城 畑中 猛

①本協議会では、認知症高齢者及びその家族が住み慣れた地域で共に生活を送ることができるよう支援することを目的として、認知症高齢者を支援するための施策の推進に関し関係者で協議します。

(11) 町田市介護サービスネットワーク町田市介護人材開発センター運営委員の推薦

2022年度委員 いこいの郷花梨・南大谷 常盤 弘幸

年2回、運営委員会に出席。

アクティブ福祉 in 町田をハイブリット形式で開催。